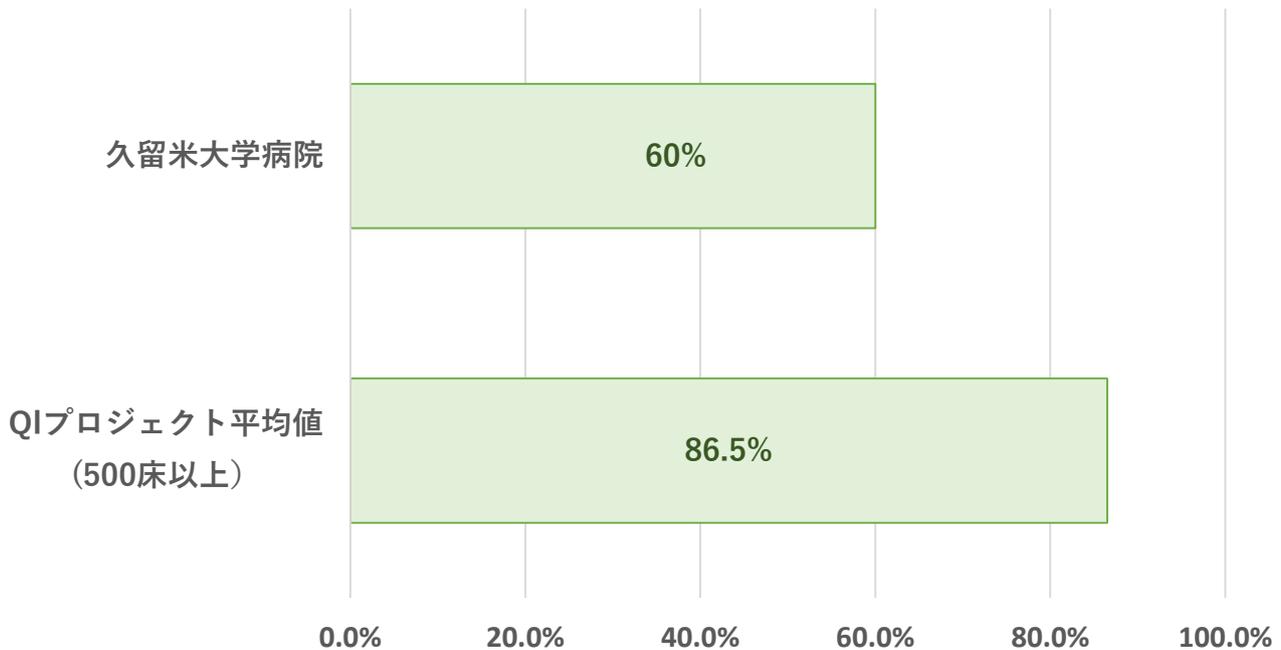


抗MRSA薬投与に対する薬物血中濃度測定割合

2023年度



指標の説明

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に有効な抗菌薬は、皮膚感染症、肺炎、血流感染症など、MRSAが原因のさまざまな感染症に使用されます。MRSA感染症の治療では、適切な抗MRSA薬の選択が重要であり、感染の重症度や患者の健康状態、薬剤の副作用などを考慮して治療計画が立てられます。この指標が高いほど、医療機関は個々の患者の薬物血中濃度を精密に管理し、有効性と安全性のバランスを取りながら抗MRSA治療を行っていることを示します。

ここでは、日本病院会のQ Iプロジェクトの平均値（回答数=102）と比較しています。

定義

分母：TDMを行うべき抗MRSA薬を投与された患者数

分子：薬物血中濃度を測定された患者数

考察

本指標は、より高い方が望ましいとされています。当院の抗MRSA薬投与に対する薬物血中濃度測定割合は、Q Iプロジェクトの平均値86.5%より低い60.0%となりました。